民生委員児童委員だより

もうすぐ春

暑さ寒さも彼岸まで！

◇編集発行◇
泉区長命ヶ丘
四丁目19番4
民生児童委員
本間照雄

様々な命のつながりを身近に感じる

春一番

◆「春一番」とは、冬から春への移行期に、初めて吹く暖かい南よりの強い風のことです。

◆気象庁の定義では、立春から春分までの間に、広い範囲で初めて吹く暖かく強い南風のことを指しています。

◆「春一番」で思い出すのは、女性三人組のアイドル「キャンディーズ」が一九七六（昭和五一）年三月一日にリリース（発売）した歌です。もう四八年経っています。

◆この歌を聴くと、年を重ねた私にも、陽気な春を運んできてくれそうに感じます。歌詞は以下のようなものです。口ずさむことが出来る方も多いのでは？

『雪がとけて川になって流れて行きます。つくしの子が恥ずかしげに顔を出します。もうすぐ春ですねえ ちょっと気取ってみませんか。

風が吹いて暖かさを運んできました。どこかの子の隣の子を迎えにきました。もうすぐ春ですね 彼を誘ってみませんか。』

（以下省略）作詞・穂口雄右

三月の春彼岸

春彼岸の定番『ぼたもち』

◆お彼岸は、それぞれ春分の日、秋分の日を中日とした前後三日間、計七日間ずつが期間とされていますが、色々紐解いてみると、お墓参り（先祖供養）以外にも色々と興味深いことがあるようです。

◆日本文化に定着している「お彼岸」は、もともとサンスクリット語の「パーラミター」が語源であると言われています。「パーラミター」は仏教用語ですが、これを音写したのが「波羅蜜多（はらみった、はらみた）」で、「般若波羅蜜多（はんにゃはらみた）」で始まる般若心経の例を挙げるまでもないほど、仏教にとって重要な概念です。

◆サンスクリット語の「パーラミター」（波羅蜜多）とは「完成する、成就する」という意味ですが、仏教では、欲や煩悩、苦しみに満ちた輪廻の世界から解脱し、迷いのない悟りの境地に達することを表します。

◆「六波羅蜜」は、この世に居ながらにして彼岸に至るための六つの修行のことです。

①布施（ふせ）波羅蜜＝見返りを求めず、他人のために惜しみなく善行を施すこと

②持戒（じかい）波羅蜜＝戒律を守り、身を慎み、他人に迷惑をかけないこと

③忍辱（にんにく）波羅蜜＝身に起こる災いを受け容れ、耐えしのぶこと

④精進（しょうじん）波羅蜜＝誠心誠意努力を続けること

⑤禅定（ぜんじょう）波羅蜜＝常に静かな心を持ち動揺しないこと

⑥智慧（ちえ）波羅蜜＝怒りや愚痴、貪りに捉われず、物事の真理を正しく見極めること

◆以上の六項目が、普段なかなか出来ない「六波羅蜜」の修行です。

◆確かにこれを実践できれば、こころ豊かな日常を過ごすことが出来そうですが、なかなか難しい。

◆お彼岸とは、ご先祖に感謝を捧げるだけでなく、この世に生きる私たちがこの六波羅蜜を実践すべき期間でもあるようです。

◆この様な「六波羅蜜」の修行と迄は行かなくとも、彼岸の期間だけでも、この六項目をほんの少し意識して、自分の生活や振る舞いを振り返ってみるのも、この時期の過ごし方として取り入れても良いのかも知れませんね。

奇なる待つ仏像

◇このお庭の主は、時間のあるときは、スポーツジムで汗を流す生活だといいます。何とも健康的で前向きな暮らしぶりで、見習いたいものです。配置にセンスを感じますね。

◇穏やかな表情の優しいブタさんとちゃっかり者の鶏さん。おとぎ話から抜け出してきたような、アンティーク調の『ブタ』と『にわとり』の素敵なオブジェが、玄関に飾ってありました。なかなか素敵な演出です。

◇豚も鶏も大昔から人間に飼われてきました。豚はよく太って、子だくさんに。鶏は毎日卵を産み、産めなくなると肉になる。その体だけでなく、排せつ物さえも自然の生態系に還元して、新たな命やエネルギーを生み出してくれます。子どもの絵本に良く取り上げられる人気の動物だと言います。きっと、教育熱心なご家庭なのでしょう。

◇アンティークの椅子に座っています。そのそばには、これまたイギリス製の如雨露（じょうろ）がさり気なく置いてあります。さりげなさの中に置かれている、センスのある置物が、何とも素敵です。豚さん、愛嬌があります。

◇ご実家のご親戚の方が彫ったお地蔵さん。何とも可愛らしい動物たちが駐車場の屋根に整列しています。子ども達が持っていた動物たちの、新たな居場所です。

◇寄り添うお地蔵さんと郵便受けの下で便りを待つ狸と蛙さん。寄り添い地蔵は、だいぶ前にお二人で旅行したときに求めたのだとか。今は、これまでとは違った趣を感じていることでしょう。